

今冬のイベント情報

さらに楽しむためのイルミネーションを

こばやし冬まつり 2015 平成 28 年 1 月 8 日 (金曜) まで

> 場所 小林駅前ロータリー広場・駅南公園

> 点灯時間 18 時～22 時 (駅南公園～21 時)

県内で初めてイルミネーション展示を行ったまつりであり、今年で 15 回目の開催を迎えます。霧島連山をイメージしたメインツリーを小林秀峰高校生がデザイン。同校自動車部が生み出したキャラクターのオブジェや電車の形をした動くオブジェなどの作品に加え、今年も光る駅舎が登場します。

●問=市観光協会 (Tel 22-8684)



実行委員をはじめ、秀峰高校の生徒たちが頑張ってくれました。子どもから大人まで楽しんでいただけるように工夫しています。多くの人たちに見てもらい、笑顔になってもらえるとうれしいです。

こばやし冬まつり実行委員会
まいた めくみ
舞田 恵 実行委員長

野尻町イルミネーション 2015

平成 28 年 1 月 9 日 (土曜) まで

> 場所 国道 268 号沿いの一部

> 点灯時間 17 時 30 分～23 時

スタンプラリー

> 12 月 4 日 (金曜)、5 日 (土曜)、6 日 (日曜)、11 日 (金曜)、12 日 (土曜)、18 日 (金曜) 18 時 30 分～21 時

今年も地域の皆さんたちと一生懸命飾りつけをしました。恒例のスタンプラリー、クリスマスイベントも開催しますので、家族や、友人、恋人などを誘ってぜひ見に来てください。



野尻町イルミネーション協議会
がののくにのり
河野 邦規 会長

野尻庁舎から出発して、スタンプ4つを集めて応募しよう。応募した人を対象に「クリスマスイベント(情報下記)」で抽選会を行います。スタンプラリー参加者には、もれなく缶バッジをプレゼント。出店もあります。



●問=野尻町イルミネーション協議会 (Tel 44 - 3004)

クリスマスイベント

> 12 月 19 日 (土曜) 18 時～

> 場所 野尻庁舎

音楽! ダンス! ステージショーや豪華賞品が当たる抽選会、先着順でお子さまにケーキもプレゼントします。温かい食べ物などの屋台販売もあります。●問い合わせ=同上

写真/国道 268 号線沿い (野尻庁舎前)

INFORMATION てなんど小林プロジェクト

地域の魅力再発見!

「てなんど小林」プロジェクトでは、小林市の魅力を発掘し、発信するためにさまざまな事業をおこなっています。今回、日常生活の中に眠っている魅力や「小林市らしさ」に着目し、市のPR材料の新発見や、小林市の豊かで味わい深い生活様式(ライフスタイル)を記録に残していくことなどを目的に、「小林市の生活様式(ライフスタイル)エピソードコンテスト」を開催します。

> 賞金は最高2万円。応募は1月29日(金曜)まで

失敗した!びっくりした!心が温かくなった!おもわず共感!

そんな生活様式(ライフスタイル)にまつわるエピソードや思い出を募集します。



●文字数=300字以内 ●応募資格=誰でも応募できます。 ●募集締切=平成28年1月29日(金曜) ●募集内容(例)=■全国共通のことだと思っていたが、それを知らずにやってしまい、恥ずかしい思いをした話や失敗談 / ■市外で話すとビックリされる独特の風習や日常風景、仰天話 / ■小林市に住んだことがある人であれば、思わず共感してしまう「あるある」話 / とある情景を目の当たりにすると「帰って来たな」と思う帰郷中の話 / なんだか心が温かくなる、もしくは素敵だなと思う独特の情景や市民性 / その他、小林市「らしさ」が込められたエピソードなど ●応募方法=所定の応募用紙で提出するか、「てなんど小林プロジェクト」ウェブサイト内の応募フォームから応募ください。応募用紙は企画政策課にあり、「てなんど小林プロジェクト」ウェブサイトなどからもダウンロードできます。 ●提出方法=郵送、ファックス、持参、応募フォームなど。 ●応募点数=応募作品数の制限はありません。 ●各賞、賞金など=最優秀賞(1本)・・・賞金2万円+小林市産品 / 優秀賞(1本)・・・賞金1万円+小林市産品 / 入選(3本)・・・賞金5千円+小林市産品 ※その他事項については、問い合わせるか、「てなんど小林プロジェクト」ウェブサイトにある応募要項をよく読んでからご応募ください。

> 別特典も。あなたのエピソードがポスターに?

多くの反響をいただいている「西諸弁ポスター」の派生企画として、小林市の豊かな生活様式を発信するポスター「kobayashi Natural Style」を制作します。応募のあったエピソードの中から「kobayashi Natural Style」に適したものを以下のようにポスター化し、インターネットなどで広く発信します。

例えば、こんなエピソード(実話です)

幼 少期の話。両親は共働きで忙しいこともあり、私は「ひいおばあちゃん」に預けられて、育ちました。「ひいおばあちゃん」は良くも悪くも生粋の田舎人だったので、思い返すと、近頃では見かけなくなった懐かしい習慣が、毎日目の前で展開されていました。今でも目に浮かぶのは、食後のひととき。ご飯茶碗に注がれた真っ黄色なお茶を飲んで、ひと息つく「ひいおばあちゃん」の幸せそうな姿が、私は大好きでした。そんな「ひいおばあちゃん」は20年前に亡くなりましたが、たまには、ご飯茶碗でお茶を飲んだりしながら、「ひいおばあちゃん」との日々を思い出したりしています。(真方・34歳・男性)

採用されるとこんなポスターに



●お問い合わせは、企画政策課 (Tel 23 - 0456) まで。